

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 支援 13

学校名・団体名	石巻市立釜小学校
HPアドレス	http://www.city.ishinomaki.lg.jp/school/20300600/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	石巻の未来をつくる力を育む復興教育の取組

〈活動・研究の意義、目的〉

本校では、平成24年度より「復興教育」を掲げ、「学校の復興なくして地域の復興なし」のスローガンの下、教育活動の充実を通して「精神復興」「教育環境復興」「地域貢献」の三つを基本の柱に、それらの具現に力を注いできた。震災を乗り越え、たくましく生きる将来の地域復興を担う人材育成を目指し、「未来をつくる力を育む」をテーマに、コミュニケーション力を身に付けることを実践の中核とした校内研究を進めることとした。具体的には、「かかわる力」「防災教育」「つなげる力」「特別支援教育」「小中連携・小高連携」「心のケア」「学校図書館」の7つの教職員プロジェクトチームを編成して、所属するプロジェクトにおいて教職員間の交流を深め、実践を重ねている。そこには、教職員と児童、そして保護者や地域が一体となって真摯に取り組む「復興教育」の姿が垣間見られた。小中連携、小高連携、地域連携も含めた一つ一つの取組は、児童の更なる「生きる力」の育成につながっていくものとする。

平成28年度 校内研究の成果と課題

石巻市立釜小学校
教諭 藤坂 雄一

1 所属校における校内研究の概要

(1) 研究主題及び副題

「石巻の未来をつくる力ⁱを育む復興教育の取組」
— コミュニケーション力ⁱⁱを生かし、学びを交流する場の工夫を通して — (第4年次/4年計画)

(2) 研究目標

各教科・領域において志教育の3視点を意識して教育活動を展開し、実践を積み重ねていくことで、石巻の未来をつくる力を育む教育活動のあり方を探る。

(3) 研究の視点

- [視点1] 志教育の3つの視点「かかわる/もとめる/はたす」を意識した単元構想の工夫
- [視点2] 人との関わりの中で思考力・判断力・表現力を高める学習活動の工夫

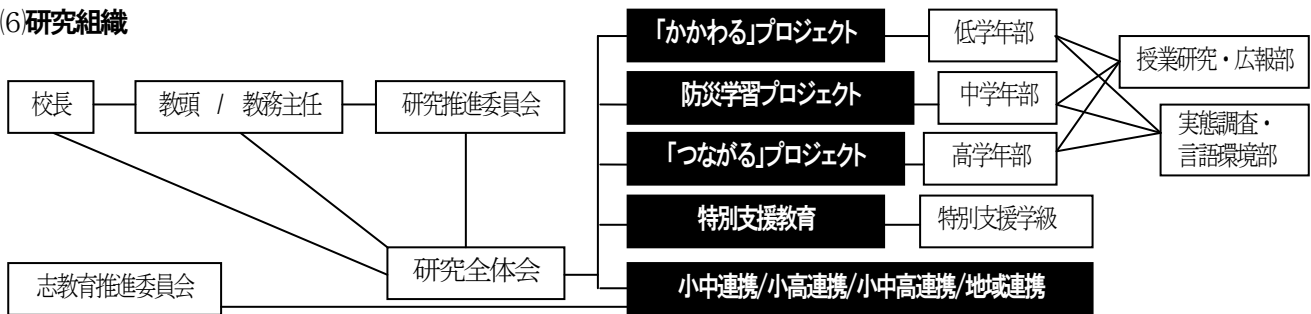
(4) 研究内容及び今年度の取組

- ▽昨年度までの研究を継続しながら、今年度は宮城県教育委員会指定志教育支援事業を受け、石巻市立青葉中学校、宮城県石巻西高等学校、石巻市立桜坂高等学校と連携して「志教育」の実践交流を推進していく。12月8日には、「石巻推進地区実践発表会」を開催した。
- ▽各教科・領域の実践を「かかわる/もとめる/はたす」の3視点で見直ししながら、未来をつくる力を育む教育活動について実践を累積していく。
- ▽授業研究会を通して、指導法改善と単元構想の検討を推進していく。

(5) 研究方法

- ▽指導主事訪問や実践研究会の機会を活用し、それぞれの学年部で2回以上の授業研究会を実施する。
- ▽「身に付けさせたい力」を学年ごとに選択し吟味する。さらに、児童の実態を踏まえて達成可能なゴールの姿を設定し、学年部ごとに取り組む内容を計画する。
- ▽児童の意識調査を実施する。実態を踏まえ、「身に付けさせたい力」を意識した実践を構想する。
- ▽志教育に関して、関係諸機関や地域の人材と連携しながら実践していく。
- ▽文献研究、先進校視察、研究会等への参加を積極的に行い、情報を共有する。

(6) 研究組織



☆小中連携及び小高連携について

- ▽日常的な連絡や情報交換を行う情報連携、学校行事の相互参加や中学生によるワークショップ等を行う行動連携、また家庭や地域とも連携して「目指す児童・生徒像」の実現を図る目標連携を小中連携の取組の重点としている。
- ▽今年度は、連携校の石巻市立桜坂高等学校と石巻西高等学校の高校生によるワークショップも実施した。

2 研究プロジェクトの成果と課題

プロジェクト	成果と課題
「かかわる」	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生と2年生の縦割り活動による交流や地域の方々との交流など、たくさんの交流実践を開発・継続し、事例を累積することができた。児童が積極的に交流しようとする姿が見られると同時に、交流場面の設定は児童の学習意欲の喚起にもつながった。 ○自然との関わり、学校探検や地域探検による人との関わり、防災についての学びの交流、さらに地域の方々から昔の遊びを学んだり、それを幼稚園児に教えたりする交流に取り組んでいる。人と関わることの楽しさを児童は体験的に知ることにより、さらに交流したいという思いを持つようになっていた。 ●交流活動に協力して下さる地域人材の確保に係る負担を軽減するためのシステムを構築していく必要がある。
防災学習	<ul style="list-style-type: none"> ○「児童用の防災カード」を作成して全校児童に配布し、防災タイム等で活用している。また、副読本「未来へのきずな」のワークシートや「みやぎ防災教育パック」のスライド資料を紹介するなどして、防災タイムで活用できそうな情報を提供しながら、防災タイム(業前活動)の実践を全校として取り組むことができた。 ○石巻西高校防災委員を進行役に、ゲーム形式で防災について考えるワークショップも継続することができた。高校生からの助言を受けながら、身近にある物をどう活用すると、命を守ることにつながるのかを考える姿を見ることができた。 ●それぞれの学年での防災学習カリキュラムは整理されつつあるので、内容の系統性をさらに吟味していく必要がある。

「つながる」

○みやぎの先人集「未来への架け橋」の実践提案を行うことができた。さらに、他教科との関連や石巻にゆかりのある人物の教材開発を進めていく。実践を通して、地域人材の生き方や考え方を学び、自己の生き方を振り返る契機となった。

○中学校生活への不安を取り除き、希望を持って進学しようとする心情を醸成することをねらいとし、中学生がファシリテーターとなってワークショップをする取組も4年目になる。中学校生活や心構えについて紹介し、小グループごとに6年生からの質問を受けながら中学生が答えていく。このワークショップの経験者が中学生になり、ファシリテーターとして役割を果たす循環サイクルも構築されている。

●「未来への架け橋」「わたしたちの道徳」さらに購入している副読本、SELなど道徳や学活で扱う内容を精選していくこと、またはカリキュラムマネジメントの視点で再考していくことが求められる。

特別支援教育

○中学校の支援学級と4月から継続して直接的・間接的に交流し、関係づくりを行うことができた。

○中学生から提供された資料は、中学校生活や共同実習所についての理解を深めることにつながった。9年間を見通した学びの連続性を意識した交流を開発することができた。

●学校間や外部団体（「青い鳥の会」など）との日程調整・内容調整が難しかった。児童の実態に応じて、内容を見直していく必要がある。

小中連携/小高連携/ 小中高連携/地域連携

○今年度より実施した取組が「夏休み学習会」である。夏休みの3日間、児童（全学年を対象にして希望者が参加）が個々に課題を持ち寄り、中高生サポーターの個別支援を受けながら自主的に学習を進めていく。基本的には小学生1人に対してサポーター1人が付き、できるだけ同じペアで学習の場を設定し、有意義な交流の機会とした。また、サポーターミーティングの場を設定し、サポーターの不安に担当釜小職員が耳を傾けたり、具体的な支援方法をサポーター同士が助言し合ったりするようにした。

○部活動交流において、本校の特別クラブ音楽部と青葉中学校吹奏楽部の連携は以前より行われていたが、さらに今年度は桜坂高校吹奏楽部との交流も実現した。伝わりやすく工夫する高校生の姿や、小学生が書いたお礼の手紙の内容などから、この交流は双方により刺激となっていることを確認することができた。

○地域連携の新しい取組として、学校図書館の親子開放がある。夏休みに一週間開放したところ、延べ228名の来室があり、合計372冊の貸出があった。親子で会話しながら、本を選んでいる姿が見られた。

3 全校での取組についての振り返り

▽教育活動を志教育の視点で捉え直していく活動を4月より行う。現職教育のワークショップを通して、「かかわる/もとめる/はたす」について具体的な目指す児童像をプロジェクトごとに話し合い、定期的に児童の姿を振り返る場を設定した。教職員間の交流の場を意図的に設定し、「身に付けさせたい力」についてビジョンを共有しながら、取組を進めることができた。

▽志教育の視点で今までの教育活動を見直すことによって、その理念は特別な授業実践や活動だけではなく、日常の学習活動の中で生かそうとすることこそ授業改善につながっていくことを教職員で共有している。関わりの中で生きていると感じ取り、培ってきたコミュニケーション力を活用しながら、さらに「未来をつくる力」を備えた児童の育成を目指して日々の実践に取り組んでいきたいと考える。

「志教育」推進指定の青葉中学区
2年間実践活動 4小中高生が発表

県教委の「志教育支援事業」の推進地区になっている仙台市青葉中学校の今年度の実践発表会が先日、青葉中で開かれた。さまざまな人や社に関わりの中で、より良い生き方を主体的に考える力を養うことが目的で、教師ら約60人が参加した。

青葉中、釜小、石巻西高、志教育の重点指導事項である「かかわる/もとめる/はたす」を通して学んだことを発表し、表が「つなげる石巻」つなげる。なすの3本柱を進めてきた。

人々、輝く未来をテーマに、小中高の連携プロジェクトな

青葉中の生徒は「誰かの笑顔が自分の力に、自分の笑顔で誰かを笑顔にできることができて知った」と語り、釜小児童は一人ひとりのつながりの大切さを学んだと話した。

児童は夏休みを利用して勉強を教える「志サポーター」について触れた桜坂高生は「自分の言葉で話す大変さを実感した」と述べ、西高生徒は「児童の発想の豊かさや、失敗を怖がらず活発に行動する姿を見て、勇気づけたい」と思ったと振り返った。

青葉中では、2016年度16年度に事業推進地区の指定を受けた。昨年度は東松島高が連携校として活動に臨んでいたが、本年度は桜坂高が代わって参加した。

本校取組組んだ活動について報告する児童

青葉中

高校生は夏休み学習をサポート

2016年(平成28)

i ▽未来をつくる力を育むとは

復興教育を土台とし、人との関わりの中でコミュニケーション力を身に付け、以下の5つの力を教育活動の中で意図的に育てていくことととらえた。

- ①確かな学力：基礎的・基本的な知識及び技能と思考力・判断力・表現力。
- ②命を守る技術：周りの状況に応じ、自らの命を守り抜くために主体的に行動する態度。
- ③夢や希望：学習の成果や体験活動の成果を将来の夢や目標につなげようとする態度。
- ④思いやりの心：自分と関わる様々な人々に、温かな心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深め、進んで実現しようとする態度。
- ⑤基本的な生活習慣：社会の中で他者を認め合い、お互いを尊重し合って生活するための態度。安心して学習活動に取り組み、落ち着いた学校生活を送ることができる環境。

ii ▽コミュニケーション力とは

国語科の目標にある伝え合う力に加え、表情やしぐさ等の非言語的な表現方法も用いながら、周囲の人々と信頼関係を築いていく力ととらえた。